

立教大学社会学部 ソーシャルデータサイエンス(SDS)コース

立教大学社会学部では、2025年度より「ソーシャルデータサイエンス(SDS)コース」を開設しました。このコースは、現代社会のデジタル化・データ化・AI化に対応し、社会学的思考とデータサイエンスを身につけた人材の育成を目指しています。

本資料では、SDSコースの概要、カリキュラム体系、習得できるスキル、そして選考プロセスについて詳しく説明します。社会現象を科学的に捉え、データを通じて社会の課題解決に貢献したい方にとって、貴重な学びの機会となるでしょう。

立教大学社会学部
2025年5月作成

*本資料で用いている画像は、別途注記されている画像以外は、すべてGamma AIを用いて作成されたものです。

ソーシャルデータサイエンスが切り拓く世界



21世紀、ソーシャルメディアを始め、社会全体のデジタル化、データ化が爆発的に進展するとともに、深層学習によるブレイクスルーが、データ分析、人工知能の革新を劇的に加速し、人類社会は大きな利便性、可能性と深刻な課題に直面しています。立教大学社会学部では、こうした社会の変化に対応し、社会科学の観点から、先進的データサイエンスを修得して、現代社会の可能性と課題に積極的に取り組む21世紀の教養人を育成するため、SDS(ソーシャルデータサイエンス)コースを、2025年度から開設しました。

ソーシャルデータサイエンスは、例えば、以下の具体例のように、すでに多様に展開されています。

世論形成の可視化

グローバルに数億人以上が、オンラインで意見や感情を日々発信し、SNS投稿は1日に数十億件と推計されています。これは巨大な「人間行動の記録」であり、SNS分析により、世論やトレンドの動きをリアルタイムで追跡することが可能になりました。このようなデータ分析は、社会的な動向を理解し、効果的な政策立案や企業戦略の策定に役立てられています。

都市計画、地域サービス、環境保全への応用

人口動態や人流・交通データ、各種地域サービス立地・利用動向の分析により、効率的なインフラ整備や公共サービスの最適配置、過疎・高齢者への支援策立案が可能になっています。また、気象データや生態系の監視データを分析することで、環境変化の予測や効果的な保全策を立案することができます。これらのデータ駆動型アプローチは、持続可能な都市開発、地域サービスや環境保全活動において不可欠なツールとなっており、限られた資源の効率的な活用と自然環境の保護の両立を支援しています。

消費行動の理解・予測・啓発

購買履歴、検索・回遊履歴等のデータから消費者の嗜好を予測し、個別化された広告・クーポン・お薦め商品などの提案が可能になります。これは、消費者体験の向上とビジネスの成長の両方にとって重要です。また、フェアトレード、環境配慮、地産地消などに関する意識調査と、実際の小売でのエコ商品、ローカル商品の購買傾向の分析を組合せ、エシカル消費、地域活性化への態度変容、行動変容を促す有効なアプローチを具体化します。

デジタル・AI社会の課題

社会のデジタル化・データ化・AI化は、多くの課題を生み出してもいます。例えば、以下のような課題をあげることができます。



プライバシー問題

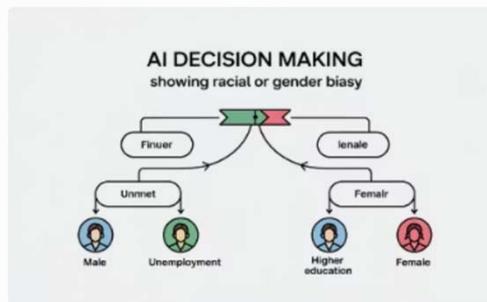
個人データの収集と活用における倫理的境界線が問われています。デジタル社会では、私たちの行動や好みのデータが常に収集されており、その使用目的や管理方法について透明性が求められています。個人情報保護と社会的利益のバランスをどう取るかは、現代社会の重要な課題です。



デジタルデバイド

技術へのアクセス・リテラシーの格差が新たな社会経済的格差を生み出しています。年齢、地域、経済状況などによって、デジタル技術の恩恵を受けられる人とそうでない人の間に生じる格差は、教育や就労機会の不平等にもつながります。すべての人がデジタル社会に参加できる環境整備が必要です。

これらの課題を認識し、解決のためのアプローチを考えることもまた、ソーシャルデータサイエンスの重要な役割です。技術的な側面だけでなく、社会的・倫理的な視点を持ち、人間中心のデータ活用を進めることが、これからのデジタル社会には不可欠であり、SDSコースでは、こうした課題に対応できる知識と視点を身につけることも目指します。



アルゴリズムバイアス

AIの判断に潜む偏見が社会的不平等を強化する恐れがあります。機械学習アルゴリズムは学習データの偏りを反映するため、歴史的な差別や偏見を永続させる可能性があります。公平で透明性のあるAIシステムの開発は、技術だけでなく社会的な視点からも取り組むべき課題です。



データ民主化の必要性

社会全体でデータ活用能力を高める必要があります。データは現代の重要な資源ですが、その価値を理解し活用できる人材はまだ限られています。消費行動でも、消費者は気づかぬうちに購買決定に誘導されたり、欺かれたりもします。データリテラシーの向上と、データに基づいた意思決定を行える社会の実現は、これからの教育や社会システムの重要な目標です。

ソーシャルデータ分析の魅力

🔍 発見の喜び

データ分析は、未知の関係性やパターンを発見する「探検」のようなものです。予想もしなかった発見が、新たな研究の切り口や社会的洞察をもたらすことがあります。一見、何の関連性もないように思えるデータの中から、意味のある関係性を見つけ出す過程は、知的好奇心を大いに刺激します。

📊 視覚化の力

複雑なデータも、適切な視覚化によってわかりやすくなります。直感的に理解できるビジュアル表現は、研究成果を広く伝える強力なツールです。グラフやチャート、インタラクティブな可視化技術を駆使することで、専門家でない人々にも複雑な分析結果を伝えることが可能になります。

🤝 社会への貢献

データに基づいた分析は、社会問題の解決や政策立案に不可欠です。根拠のある提言は、実社会に具体的な変化をもたらすことができます。例えば、公共交通機関の最適化、医療リソースの効率的な配分、教育格差の解消など、データ分析は様々な社会課題に対する解決策を導き出します。

データ分析の最も魅力的な側面は、データから意味のある構造・パターンを見つけ出し、解釈するプロセスです。例えば、学生の勉強習慣データを分析すると、「計画型」「集中型」「夜型」という3つの異なる学習スタイルが浮かび上がり、それらのスタイルと成績との関係も見えるかもしれません。

また、複雑な社会現象も、適切な分析手法によって理解しやすくなります。SNSの投稿データからは世論の変化を、地理情報と人口統計からは住民のニーズを把握することができます。データサイエンスの手法を用いることで、直感だけでは気づかない社会の姿が見えてくるのです。

皆さんもSDSコースで学び、データの向こう側にある社会の姿を見る目を養っていきましょう。日常生活の中の「なぜ？」を大切に、それを実証的に解明する喜びを体験することができます。



SDSコースの概要



コースの特徴

対象学生

2025年度入学からの社会学部学生(学科を問わず)が対象です。データサイエンスに興味を持ち、社会現象を科学的に分析したいと考える学生に適しています。

定員

定員は20名です。少人数制により、一人ひとりに合わせた丁寧な指導が可能となります。学科の垣根を越えた多様な視点を持つ学生との学びが期待できます。

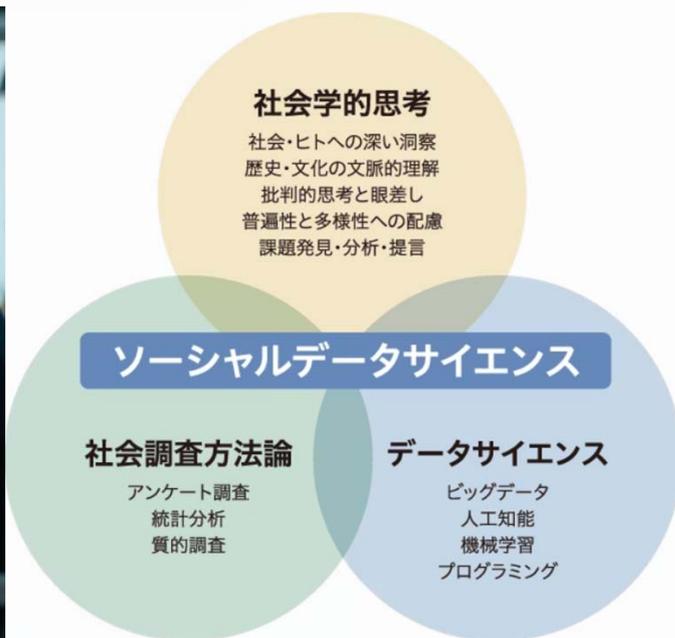
選抜プロセス

1年次春学期に選抜を行い、内定生は1年次秋学期にSDS必修の講義・演習を受講します。1年次末に正式に選択し、2年次からSDSコースに所属することになります。

SDSコースでは、データサイエンスのスキルを習得するだけでなく、それを社会学的視点と組み合わせることで、現代社会の複雑な問題を多角的に分析する力を養います。最新のデジタルツールを使いこなしながらも、その背後にある社会的意味を理解し、倫理的な視点を持って問題解決に取り組める人材を育成します。

また、プログラミングや統計分析などの実践的なスキルと、社会調査や社会理論などの社会学の知識を融合させることで、従来の社会学にはない新しいアプローチで社会現象を探究することができます。このような学際的な学びは、変化の激しい現代社会において非常に価値のある能力となるでしょう。

SDSコースコンセプトと学びの特徴



コースの基本コンセプト

SDSコースは、「社会学的思考」「社会調査方法論」「データサイエンスの手法」という3つの要素を組み合わせた独自のアプローチを採用しています。社会学にデータサイエンスを活かすとともに、社会学が蓄積してきた「ソーシャルデータ」の分析を発展させることで、現代社会の課題を発見・分析・提言できる力を養います。

SDSコースの学びが大切にすること



分析スキルの習得

データ収集から分析、解釈までの一連のプロセスを実践を通して学びます。Pythonなどのプログラミングや統計分析ツールの基本的な使い方も身につけます。理論だけでなく実践的なスキルを重視し、実際のデータを用いた分析プロジェクトに取り組みます。



探究心の育成

データの中に隠れたパターンや関係性を見つけ出す「探究の目」を養います。当たり前に見える現象にも、新たな視点から疑問を投げかける姿勢を大切に、常に「なぜ？」と問いかける批判的思考力を培います。



チームワークの経験

演習では、グループでの調査活動を通じて、役割分担や意見交換、協力して成果を出す経験を積みます。異なる視点を持つメンバーとの協働は、より深い分析につながります。社会人として不可欠なコミュニケーション力も育みます。



創造的思考の醸成

データから得られた知見を基に、社会問題の解決策や新たなサービスのアイデアを創出する力を育みます。データ分析は単なる技術ではなく、創造的な問題解決のツールとして位置づけられています。

SDSコースでの学びを通して、皆さんには単にデータ分析の技術を学ぶだけでなく、社会現象を科学的に捉える視点を身につけてほしいと思います。日常生活の中の「なぜ？」を大切に、それを実証的に解明する喜びを体験することで、データを通じて社会を理解し、より良い社会の実現に貢献できる力を養うことを目指しています。

SDSコースカリキュラム体系

SDSコースの必修・選択必修は、大きく5つの科目群から成り立っています。これらの科目群を通じて、社会学の基礎とデータサイエンスのスキルをバランスよく習得することができます。



社会学の基礎

社会学原論1・2、基礎演習、専門演習1などの必修科目を通じて、社会学の基本的な考え方や研究方法について学びます。社会現象を分析する上での理論的基盤を身につけます。



社会調査系科目

社会調査法1・2、データ分析法などの必修科目に加え、社会統計学、多変量解析、質的研究法などから選択必修科目を履修します。これらの科目を通じて、社会調査の設計から実施、分析までの一連のプロセスを学びます。



データサイエンス系講義科目

ソーシャルデータサイエンス概論、情報社会論、メディア・コミュニケーション論などの必修科目と、ソーシャルデータサイエンス1・2(基礎・発展)の選択必修科目を履修します。これらの科目では、データリテラシーやAIの基礎など、現代社会に必要なデジタル知識を学びます。



データサイエンス系演習科目

プログラミング基礎・応用実習、ソーシャルデータサイエンス実習などの実践的な科目を通じて、Pythonによるプログラミングスキルやデータ分析の実践力を身につけます。実際のデータを用いたプロジェクト型学習により、理論と実践を結びつけます。



社会と技術関連講義科目

データサイエンスをはじめとする現代社会の情報技術・メディアコミュニケーション技術など高度技術と社会との関係について考える力を身につける科目群です。8科目から2科目を選択して履修します。

SDS系講義科目は社会学部生全員が履修可能です。これらの科目を履修することで、情報処理推進機構ITパスポート試験、データサイエンティスト協会データサイエンス検定リテラシーレベル、日本ディープラーニング協会G(ジェネラリスト)検定などに対応した知識やスキルの基礎を修得できます。

また、SDSコース生以外の社会学部生向けにも、「プログラミング基礎実習B」「プログラミング応用実習B」「ソーシャルデータサイエンス実習1B」などの演習科目が開講されています。これにより、SDSコースに所属していない学生も、データサイエンスの基礎的なスキルを身につけることが可能です。

SDSコースで身につく力



データ分析力

ビッグデータ解析方法、社会的課題・可能性にデータからのアプローチを考える力を身につけます。統計的手法やデータマイニング技術を用いて、複雑な社会現象を分析し、意味ある知見を引き出す能力を養います。これにより、エビデンスに基づいた議論や提言が可能になります。



プログラミングスキル

Pythonを使ったデータ処理・分析ができるようになります。テキストデータの処理、統計分析、データの視覚化など、社会科学的研究に役立つプログラミング技術を修得します。これらのスキルは、アカデミックな研究だけでなく、ビジネス現場でも高く評価されます。



批判的思考力

データの裏にある社会的意味を深く洞察できる力を培います。数値やグラフの背後にある社会構造や人間行動の複雑さを理解し、データを批判的に解釈する能力を身につけます。これにより、表面的な分析を超えた本質的な理解が可能になります。



実践力

現実社会のデータを用いたプロジェクト経験が得られます。Civic Tech開発やデータを活用した提言力を養い、実社会の課題解決に貢献できる能力を身につけます。理論と実践を結びつけ、社会的インパクトを生み出すプロジェクトを企画・実行できるようになります。

これらの能力は相互に関連しており、SDSコースのカリキュラムを通して総合的に育成されます。データ分析の技術的スキルだけでなく、社会学的な視点からデータを解釈し、実社会の文脈で活用する力を養うことで、現代社会が直面する複雑な課題に対応できる人材を育成します。

SDSコースの卒業生は、コンサルティング、広告・マーケティング、IT関連企業、データ分析部署を持つ一般企業、公共政策に関わる行政機関やNPO、大学院進学など、多様なキャリアパスを選択することができます。社会学の知見とデータサイエンスのスキルを併せ持つ人材は、今後ますます社会から求められることが予想されます。



SDSコースの魅力

SDSコース「ソーシャルデータサイエンス実習2」となる演習科目の受講者の声をききました！



*上記画像は実際の受講生たちの座談会風景です ©立教大学

👤 データ分析で社会問題を深く理解

「社会の複雑な問題をデータで捉え、より客観的な視点で考えられるようになったことが魅力！」

プログラミングやデータ分析の実践力を身につけ、自分の考えだけでは見えなかった社会の側面に気づき、数字を通して世界を読み解く力を養えたことに手ごたえを感じています。

👤 初心者からのスタートでも充実した学び

「Pythonの知識ゼロからスタートしたが、演習が充実していてしっかり学べた！」

段階的に学べるカリキュラムと丁寧な指導により、プログラミング未経験でも着実にスキルを身につけ、伸ばせます。また、プロジェクト型演習で、仲間と励まし合いながら乗り越えた経験が成長につながります。

👤 将来の選択肢の広がり

「社会学とデータサイエンスの両方を学べるので、将来の選択肢が広がった！」

従来の社会学の研究方法に加えて、データ分析のスキルを身につけることで、就職活動でもアピールできる強みが増え、キャリアの可能性が広がったと感じています。



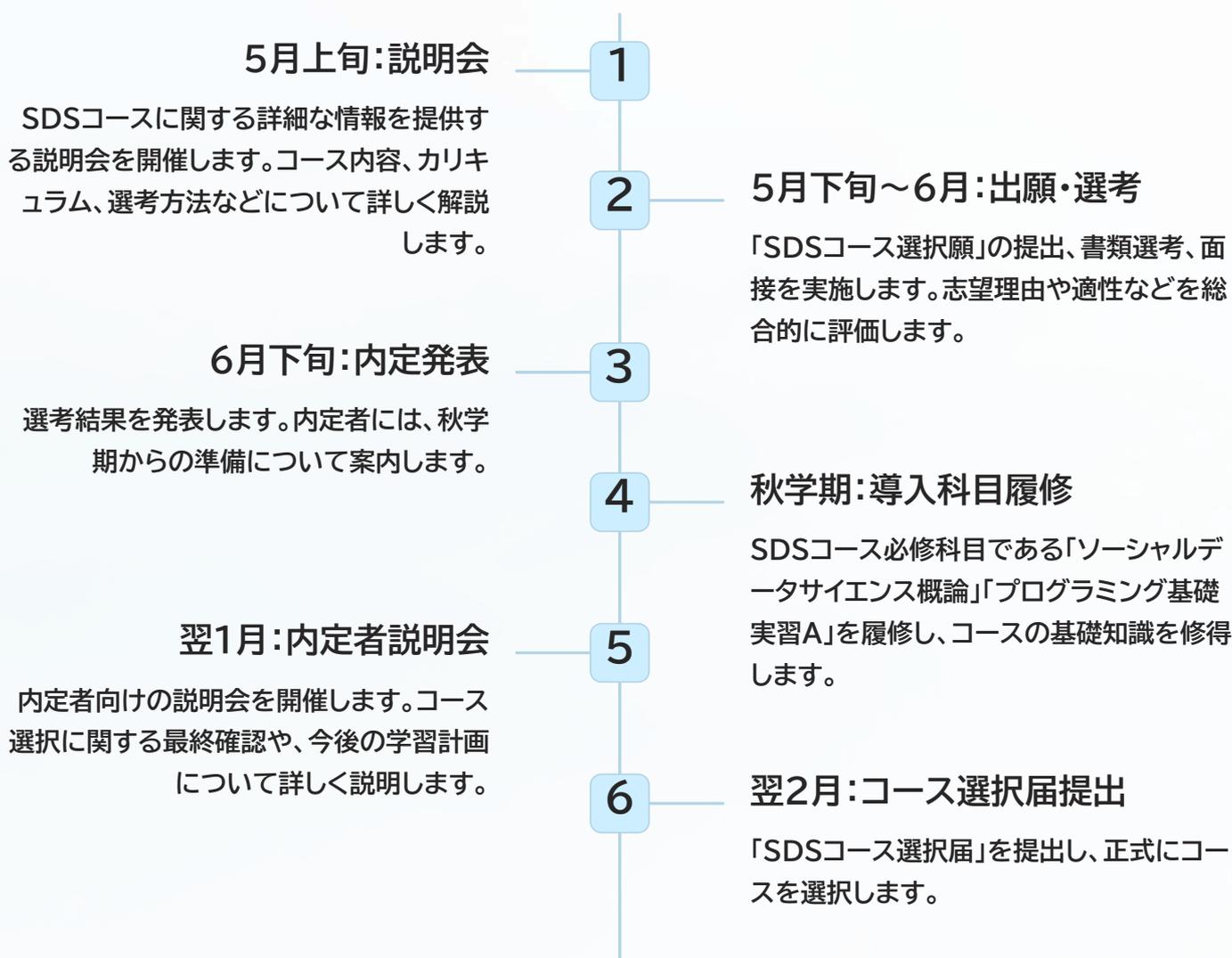
3人の座談会の様子は、[こちら](https://sociology.rikkyo.ac.jp/feature/students/2024/hc09nv0000004bxo.html) (<https://sociology.rikkyo.ac.jp/feature/students/2024/hc09nv0000004bxo.html>) でご覧いただけます。

また、履修生とSDSコース担当教員との対談でも、SDSコース、ソーシャルデータサイエンスの魅力が詳しく語られています。[こちら](https://sociology.rikkyo.ac.jp/feature/faculty/2024/hc09nv0000004916.html) (<https://sociology.rikkyo.ac.jp/feature/faculty/2024/hc09nv0000004916.html>) をご覧ください！

これらのインタビューからは、SDSコースで学ぶ学生たちが、理論と実践を結びつけながら、社会的な視点とデータサイエンスの手法を融合させる新しい学びの可能性を見出していることが伝わってきます。自分の関心領域をデータ分析の観点から探究する喜びや、新たな発見をする驚きが、学生たちの言葉からも感じられます。



SDSコース選考・選択プロセス*



* ここで示したプロセス、スケジュールは、2025年度選考をモデルとしたものです。プロセスを具体的にイメージいただくための例示であり、実際の選考プロセス、スケジュールについては、年度により修正、変更される場合があります。予めご承知おきください。

応募にあたっての注意点

❗ コース選択の制限
SDSコースと国際社会コースに両方とも所属することはできません。両コースに関心ある人は、どちらか一方を選択する必要があります。それぞれのコースの特徴をよく理解し、自分の興味や将来の目標に合ったコースを選びましょう。

🔒 コース変更の制限
SDSコースを一旦正式に選択すると、原則として通常の学科履修に戻ることができません。カリキュラムや学習内容をよく理解した上で、慎重に検討して応募してください。

📄 卒業論文が必須
SDSコースの卒業要件には、専門演習2A・2B(3年ゼミ)、卒業論文演習1・2(4年ゼミ)、卒業論文が不可欠です。卒業研究では卒業できません。ただし、社会学部では9割程度の学生が卒業論文で卒業しているため、是非積極的に取り組んでください。

問い合わせ先

SDSコースに関する質問や不明点がある場合は、社会学部DX(デジタル化推進)委員会(socsds@ml.rikkyo.ac.jp)までお問い合わせをお願いします。

また、社会学部SDSコース紹介ページ(<https://sociology.rikkyo.ac.jp/undergraduate/about/SDS.html>)を是非ご覧ください。

SDSコースを中心に、立教大学社会学部では、統計学やプログラミングの経験がない学生も、基礎から段階的に学ぶことができるカリキュラムが用意されています。大切なのは数式よりも、データから意味を読み取る力を養うことです。立教大学社会学部は、その規模・教授陣の多様性において、日本で有数の社会学部であり、SDSコースのみならず、社会学部どの学科、どのゼミでも、皆さんの関心に基づいて幅広い多様なテーマに取り組むことができます。

